

公開講座 神奈川の海を学ぶ 2017

2017年 5月17日(水)～7月12日(水) みなとみらい クイーンズスクエアで開講

神奈川の海は、横浜港をはじめとした都市部の海、三浦や西湘地区の自然豊かな海、さらに多くの人が集う湘南海岸など、様々な特徴を持っています。しかし、その自然や生物たちは、まだまだ知られていないことがたくさんあります。日常では目にしない神奈川の海をご紹介しますとともに、これら親しみある海を持続的に「利用」し、「保護」していくために、現代日本の海洋政策のキーワードである総合的海洋管理の視点から公開講座を開催します。

■ 講義日程

【第1回】5月17日(水) 19時～21時

東京湾 ～地勢、自然・環境・それを取り巻く社会とその変遷、そしてこれから！～

中村 由行 (横浜国立大学 統合的海洋教育・研究センター 教授)

【第2回】5月31日(水) 19時～21時

横浜、インナーハーバーを事例とした港湾における街づくり

野原 卓 (横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 准教授)

【第3回】6月14日(水) 19時～21時

相模湾の自然 ～その地形・地質・環境・生物そしてその成り立ち～

藤岡 換太郎 (神奈川大学 非常勤講師、放送大学 非常勤講師)

【第4回】6月28日(水) 19時～21時

神奈川県主要港湾(横浜港、川崎港、横須賀港)の海上物流 ～その歴史と将来～

吉本亜土(株式会社 商船三井 経営企画部 One MOL営業戦略推進室 主任研究員)

【第5回】7月12日(水) 19時～21時

相模湾沿岸の海岸保全 ～諸外国との比較～

宇多高明 (一般財団法人 土木研究センターなぎさ総合研究所 所長)

※詳しい内容については裏面をご覧ください。



受講者募集
参加無料

■ 会場

クイーンズスクエア横浜 クイーンモール3階

一般社団法人横浜みなとみらい21 プレゼンテーションルーム(みなとみらい線みなとみらい駅徒歩3分)

■ 申し込み方法

横浜国立大学ホームページからお申し込みください。【トップページ→産学・社会連携→生涯学習 公開講座のご案内】
または、下記までFAXでお申し込みください。(講座名、氏名・フリガナ、性別、年齢、住所、電話番号、職業、次年度以降の公開講座案内の送付希望の有無をお知らせください。)

■ 問い合わせ先

横浜国立大学 総務部 広報・渉外室 広報係 TEL:045-339-3016/FAX:045-339-3179

■ 講義要旨

【第1回】 東京湾 ～地勢、自然・環境・それを取り巻く社会とその変遷、そしてこれから！～

中村 由行 (横浜国立大学 統合的海洋教育・研究センター 教授)

わが国は世界でも有数の長い海岸線を有し、漁業活動を支えるとともに、海とのふれあいを通じて豊かな社会文化的な歴史を有しています。一方で、国土の約7割を山地が占め、平地は沿岸部に限られます。また、天然資源に乏しく、エネルギー源や工業原料の多くを輸入に頼っており、必然的に、人口や産業、交通の基盤施設などが沿岸域に集中しがちで、埋立てなどにより開発を行いながら産業の育成を図ってきました。また、台風や津波などの災害の危険性とも同居しています。ここでは海洋管理の視点で、沿岸域の開発、利用、保全等について概観します。身近な例として、横浜市を含む東京湾の埋立ての歴史や課題について紹介します。

【第2回】 横浜、インナーハーバーを事例とした港湾における街づくり

野原 卓 (横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 准教授)

日本の臨海部にある多くの都市は、「みなとまち」を海(自然)と都市(生活)の接点としながらここまで発展してきましたが、近年では、この「みなと」と「まち」の関係が見えにくくなっています。また、産業構造の変革や輸送システムの大型化、少子高齢化時代などを背景として、みなとまちのあり方も大きく変容してきています。転じて、横浜都心部を航空写真で眺めてみますと、海(湾)を取り囲むように市街地がリング状に形成されているようにも見えます。こうした状態を「インナーハーバー」ととらえて、このインナーハーバーが有する可能性・資源性をとりあげながら、これからの海と都市、みなととまちの関係を、改めて考えてみたいと思います。

【第3回】 相模湾の自然 ～その地形・地質・環境・生物そしてその成り立ち～

藤岡 換太郎 (神奈川大学 非常勤講師、放送大学 非常勤講師)

相模湾は駿河湾、富山湾とともに水深1,000 mを越える日本の三大深海湾の一つです。地形的には火山の多い西部、プレートの境界である中部、断層の多い東部とに三分されます。相模湾の中には、多数の海底谷がこのプレート境界である相模トラフへ集約しています。相模湾には様々な水が関与して多くの生物が棲息しています。初島沖や沖ノ山堆列の麓には化学合成生物群集が知られています。これらの生物は断層に沿って地下から上がってくるメタンを栄養とするバクテリアを共生させて棲息しています。相模湾はおよそ100万年前に伊豆半島の本州への衝突によって誕生しました。その後火山活動や断層運動そして海面変動を繰り返して現在のような環境になってきました。

【第4回】 神奈川県主要港湾(横浜港、川崎港、横須賀港)の海上物流 ～その歴史と将来～

吉本 亜土 (株式会社 商船三井 経営企画部 One MOL営業戦略推進室 主任研究員)

嘉永6年(1853)、江戸の玄関口と呼ぶべき浦賀(横須賀)に黒船が来航し、近代日本の扉が開かれました。安政6年(1859)には日米修好通商条約に基づき横浜が開港されました。横須賀は後に軍港そして自動車の輸出港へ発展します。横浜も生糸貿易の中心地、客船の基幹港、京浜工業地帯の輸出窓口として力強くそして華やかに成長を続けています。コンテナ化への対応において東京港の後塵を拝したものの、近年南本牧埠頭が世界最大級のコンテナ船を次々迎え入れ、東京港を追い上げています。川崎港を忘れてはいけません。鉄鋼原料および原油の荷揚げ港として、大切な役目を担っています。関東地方だけでなく、日本の生活と経済を支えるのが横須賀、横浜、川崎の3港と云えます。写真と資料でその歴史を辿り、将来について考えてみたいと思います。

【第5回】 相模湾沿岸の海岸保全 ～諸外国との比較～

宇多 高明 (一般財団法人 土木研究センターなぎさ総合研究所 所長)

わが国の他の沿岸域と比べ相模湾沿岸では昔ながらの砂浜がよく残されており、それが国民共有の財産となって季節を通じて多くの人々が楽しむことができる場を提供しています。このような海岸の在り方は、日本ではむしろ稀なものとなってきていますが、諸外国ではそのようなあり方こそがむしろ主流です。ここでは、アメリカ、スペイン、ポルトガルなど他の諸国の海岸と相模湾沿岸とを対比させつつこのような視点からの砂浜の価値について述べます。

■ 会場アクセス

会場：

クイーンズスクエア横浜 クイーンモール3階
(一社)横浜みなとみらい21 プレゼンテーションルーム

アクセス：

みなとみらい線みなとみらい駅 徒歩3分
JR桜木町駅 徒歩10分
市営地下鉄桜木町駅 徒歩10分

クイーンモールの1Fまたは2Fから、[アット!] 3rdの「緑のエレベーター」で3階にお上がりください。

※右図参照

